

コミュニティバス品野3線における HALF DEMAND 運行について



1 背景

コミュニティバス運行は、より良い運行を目指して地域の運行協議会等と協議を重ね、随時改正を行うものの、新規バス停設置や増便など更なるサービス向上へのご要望を多くいただいています。そこで、これまでの運行方法に捉われず、厳しい財政状況の中でも持続可能な運行方法として、品野3線を対象に「ドアトゥドア（door to door）」に近いデマンド運行を導入した新たなコミュニティバスを提案します。

2 現在の品野3線（上半田川線、片草線、岩屋堂線）運行概要と利用状況

便数：各路線4便 運行時間：7:20～18:36 運行車両：10人乗り^{※1} 利用料金：100円

現行路線の乗降者数（令和4年度4月～12月未までの日平均）

路線	方向	ダイヤ	乗降者数			
			7:20	9:53	12:27	15:57
片草線	上り	ダイヤ	7:20	9:53	12:27	15:57
	BC行	乗降者数	0.1人	6.0人	0.9人	0.2人
片草線	下り	ダイヤ	9:26	11:50	15:20	18:22
	片草行	乗降者数	0.4人	3.4人	2.3人	0.1人
上半田川線	上り	ダイヤ	7:56	10:50	14:20	16:53
	BC行	乗降者数	7.2人	5.1人	1.8人	0.2人
上半田川線	下り	ダイヤ	7:36	10:12	13:46	16:16
	上半田川行	乗降者数	0.3人	3.2人	5.5人	4.0人
岩屋堂線	循環 ^{※2}	ダイヤ	8:36	11:12	14:42	17:10
		乗降者数	5.4人	6.7人	2.2人	1.5人

午前の利用が
大部分

上半田川線は
下り午後も多い

※1 ハイエース1台で3路線運行
※2 岩屋堂線は上下便合わせて
循環線として集計

3 HALF DEMAND バスの運行概要（案）

品野3線は、各住宅地から基幹バスとの乗継ぎができる「しなのバスセンター」や主要商業施設である「パロー品野店」間で概ね利用されている特徴があり、利用者からは目的地の滞在時間に対して帰りの待ち時間が長いという声をお聞きします。また、当市で行ったデマンドバスの事例として平成29年度に下半田川線がありますが、その際は事前予約が面倒という声が多くありました。

以上のことから、各住宅地から「しなのバスセンター」への行き（上り）は、利用の多いお昼まで定時定路線の運行、「しなのバスセンター」から各住宅地への帰り（下り）はデマンド運行を行うことを基本とする案を次のとおり提案します。

(1) 行き（上り）

ア 午前中の行き（上り）のみ定時定路線



上記利用実態から、下記のとおり上り1便から3便まで定時定路線の運行を行います。

- 運行車両：10人乗りハイエース
- 利用料金：100円
- 乗降場所：現行の各バス停
- 運行ダイヤ（右上のとおり）
⊕：上半田川、⊖：岩屋堂、⊙：片草、各始発バス停出発時刻

※上り専用のため、下り利用については乗車できません。

⊕1便	⊖1便	⊙1便	⊕2便	⊖2便	⊙2便	⊕3便	⊖3便	⊙3便
7:50	8:28	9:03	9:32	10:10	10:45	11:14	11:52	12:27

※「道の駅瀬戸しなの」は、利用者数が3路線合計で1日あたり約1.0人のため経由しません。

※現行路線から北山団地内への乗入れを上半田川線で行った場合の運行時間です。

イ その他の上り（行き）はデマンド運行

基本運行ダイヤ（ア）以外の上り便は、下記のとおり事前予約制でデマンド運行を行います。

- 運行車両：5人乗り乗用車（タクシー車両、帰りと同じ車両）
- 利用料金：300円
- 乗降場所：現行路線のバス停
- 運行時間：13:00～17:00（迎えは概ね毎時15分、45分頃）
- 予約方法：乗車1時間前までに運行事業者へ電話連絡



(2) 帰り（下り）

「しなのバスセンター」及び「パロー品野店」を基点にデマンド運行を行います。「しなのバスセンター」及び「パロー品野店」へ出発時刻に来ていただくことで乗車でき、「道の駅瀬戸しなの」やその他主要バス停については、事前予約を行うことで乗車できます。

- 運行車両：5人乗り乗用車（タクシー車両）
- 利用料金：300円
- 乗車場所：しなのバスセンター、パロー品野店、道の駅瀬戸しなの、その他主要バス停
- 降車場所：運行区域内の原則希望場所（安全に運行及び乗降者可能な場所）
- 出発時間：しなのバスセンター（毎時00・30分）、パロー品野店（毎時02・32分）
- 運行時間：10:00～17:00
- 予約方法：乗車1時間前までに運行事業者へ電話連絡（道の駅瀬戸しなの等）

(3) 定員超過の対応（追加車両）

現行路線の帰り（下り）利用は、1日平均10～12時頃で約10.0人、13～15時半頃で約8.9人のため、利用が重なると定員超過となります。そのため、原則1台までは追加車両（5人乗り乗用車及び定時運行を終えた10人乗りコミュニティバス車両）を配車して対応します。

(4) 運行日数と経費

現行は毎日運行ですが、他路線とのサービスのバランス等から週4日の運行とします。

判定	運行内容	経費	収入	支出	収支率
△	現行の週7日コミバス運行（R3）	1561万円	95万円	1466万円	6.1%
○	週4日 HALF DEMAND 運行（案）	1531万円	109万円	1422万円	7.1%
△	週5日 HALF DEMAND 運行（案）	1782万円	136万円	1646万円	7.6%

(5) 社会実験時期と効果検証

令和5年9月頃から半年間程度の実施に向けて協議・検討を進めます。社会実験では、利用実態や利用者の声、収支率、運行経費等から持続可能な運行方法について検証します。